

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



一年間を通しておちばを賑やかにしよう

1. 毎月一千人のおちばがえり
1. 五十万軒にをいがけとおさづけの取次

立教169年
12月号



第2回 大教会長杯 親善 ソフトボール大会

笠岡内のブロックを越えた親善を持ちたいという大教会長様の思いで開催される親善ソフトボールの第2回大会が去る11月23日、前日までの90パーセント雨天予想を覆して曇りの中、8チーム(大人約100名、子供約30名)がグラウンドに集まった。雨天だった時の為ソフトバレーボールに切り替えられる様体育館も予約していたが、今回は使用せずに済み次回大会以降の下準備となった。

今回は大会を進めるに当たり各ブロックの代表者に集まって頂きルール、チーム条件など綿密な打ち合わせをし、この親善大会がスムーズに運ぶよう相談をした。

大会に花を添える昼食もおにぎり、パン以外に森本重吉さんが善意でうどんを作って下さり、少し冷え気味の体温を暖めてくれ、一日の大会を賑やかに進めることができた。

なお成績は、優勝が福山、準優勝が高屋山王チーム、3位が混合チームでした。なにはともあれ大勢の人が経験した体中の筋肉痛以外は大した怪我もなく、スポーツを通して一

日を楽しく過ごして下さった事に喜びを感じます。来年は4月22日(日)予定です。大教会月次祭の次の日の日曜日なので、遠方の人も少しでも多く参加して下さいを楽しみにしています。皆様のご協力のお陰で無事開催できたことを紙面を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

(大会実行委員会 上原志郎)

笠岡部内親善ソフトボール

大教会長杯から学んだこと

木津和分教会

丸山 正人

第二回親善ソフトボール大会に上下チームとして出場させていただきました。

私はこのソフトボール大会で二つのことを考え学ばせていただきました。

まず最初は、団体競技だからみんなが協力しあうことです。たすけあうことが大切です。自分勝手にプ

レーすることはいけません。チームの人のミスを補い、相手の気持ちを考えることが大事です。相手に感謝し、みんな喜び、全員でたすけ合う、感謝、喜び、たすけあいの精神です。

もう一つは、かしのもの、かりもの大切さです。あるテレビで、身体障害者の国際軟式野球大会が神戸であったと言う話です。

その中の一人の人は、高校野球で活躍し、甲子園へ出場し、将来も期待されていたんですが、

事故に遭い利き手を機械にはさまれてしまい野球を諦めかけていたんですが、自分の努力と、周りの人の応援により、その中のチームのメンバーに選ばれ、見事国際軟式野球大会に優勝したと言う話です。

僕は、五体満足な体を親神様からかしてもらっています。かしのもの、かりものに感謝して大切に、喜んで使わせてもらわなければいけないと思います。

こういう大会を行ってくださった、大教会長様、本当に有り難うございます。また、参加できる機会がありましたら、喜んで参加させて頂きたいです。

本当に有り難うございました。



第二回ソフトボール大会をして

芳井分教会 森 本 麻里子

私は、今日ソフトボール大会に行きました。第一回目も寒い中、楽しくソフトボールをしました。今回は、年齢が低い子が多く楽しく、ゆったりとしたソフトボールができました。私は、

小学四年生からソフトボールをしていて、ルールや守備の動きなどは大丈夫でした。第一回目の時と比べると、

とても寒く、ファーストに来たボールをとるととても痛かったです。久しぶりに体を動かしたので、ちょっと鈍い動きだったけどなんとか一日動けました。一試合目は、混合のチー

ムとして最初は勝っていたのですが逆転され負けてしまいました。バッティング

グで一度も塁にでることができませんでした。た。(涙)二試合目も、負けてしまいました。この試合は、高屋の人たちとやって楽しい試合が

きました。ドベの決定戦をして、なんと直轄A対直轄Bになり、笑いながら、はしゃぎながらやりました。海松ヶ岡の可愛い子どもたちがたくさんいて、にぎやかだったけど、いい試合ができました。子どもたちもソフトボールがすごくうまくて

ちょっとあせったりもしました。一日に、三試合もの試合をしてほんとうにつかれました。たくさんの人とふれあえて、試合を通して話せるようになったりしてよかったと思います。来年もこのソフトボール大会を言うていたので、ぜひ参加したいと思います。寒い中の、うどんやパン、おにぎりはとてもおいしかったです。本当に、たのしい試合ができました。ありがとうございました。

ソフトボールと私

笠岡大教会直轄

徳山 毅

寒い勤労感謝の一日、第二回大教会長杯のソフトボール大会が開催されました。参加チームは八チーム。年配者からチビッコまで老若男女と数多くの参加者で開催されました。

大教会長様のお言葉に始まり、試合が進行するにつれ「ガンバレ」「ホームラン」を打て、応援もエスカレート、好プレー、珍プレーありで寒さをもとめせず熱気で盛り上がり、大変楽しい一日をすごすことが出来ました。

私個人と申しますと「フライ」は捕れない、ゴロはトンネル、目は見えない、足は縛れる、体力の衰えはいなめない、情けない「神様、若き青年

時代の体力、気力を与えてください」と、心の中で叫んでみたものです。「だがまてよ、チームの中で私より年配者の分教会長様がはつらつとしたプレーをしているではないか」私は、現在六十二才になりますが、まだまだ鼻たれ小僧、頑張らなければ、とつくづく思いました。今後大会が末長く続くかぎり参加させていただきたいと思っております。結果は最下位ではありましたが、参加者の皆様、大人からチビッコまで、笑顔、また笑顔、ぶっつけ本番ではありましたが、「みんなに元気をもらった」思いでございました。

最近大きな社会問題となっております「いじめ」の問題、参加者の皆様を見ると、暗いニュースをみじんも感じさせない、一つの目的に向かって、「団結」、「協力」、「助け合い」、「思いやり」等、見習う事の多さを、あらためて学ぶ思いでした。スポーツは楽しい、皆一つになれるのですから。今年、教祖百二十年祭の年にあたります。信仰、又スポーツを通じて増々、輪が広がりますよう、多くの友人、仲間とともに頑張っていきたいと思っております。

今後ともよりおおくを学び、楽しみ、健康に留意し、行動範囲を広げていきたいと思っております。昨日より今日、今日より明日、心にゆとりを持って一つ一つを大切に、笑顔は、すばらしい、スポーツは、すばらしい。



島根分教会で 創立百十周年記念祭執行



去る十一月十八日、笠岡大教会長様・奥様のご臨席のもと、門脇元教会会長祭主で午前九時三十分より、十一月の月次祭に併せて、創立百十周年記念祭が執り行われました。

大教会長様より祭典講話として「これからも陽気で賑やかな祭典を目指してください」と訓示下

さいました。祭典終了後一時よりアトラクションが始まり、中庭では模擬店、神殿参拝場では各教会からの「演芸」十八組で盛り上がりを見せられました。

締めには、大教会長様、奥様、島根分教会長、役員、部内会長、来場者一同が、三代正道理事の発声で「次の塚を目指し更なる躍進」を誓い「万歳三唱」でお開きとなりました。当日は肌寒い一日でしたが、五百余人の参加を頂き、新たな一步を踏み出すことが出来ました。

創立百十周年記念祭を終えて

島根分教会 門脇 久枝

東京から嫁いでちょうど一年余りが経過した去る十一月十八日、私は幸運にも島根分教会創立百十周年記念祭を勤めさせて頂くことが出来ました。先人のご苦勞を偲ぶにあまりある歴史ある教会です。何かと不慣れな事も多く悪戦苦闘しながらも、期待でいっぱいでした。準備は十年前より



進められていた様子でしたが、数か月前に迫ると具体化され、日を追う毎に盛り上がっていきました。中でも駐車場の拡張工事は、感慨深いものがありました。連日の残暑の中を、一丸となって共に汗を流し、時には中学生の姿さえも見られました。当日は大教会長様夫妻のご参拝を頂き、天候にも恵まれ、各教会の味自慢の模擬店が大変な盛況ぶりでした。又、芸達者な方々の素晴らしい余興(舞楽、ファゴット演奏、等々)には感銘しました。そして感動さめやらぬ同月、本部月次祭には御礼団参。詰所での直会は、一手一つになった人々の沢山の笑顔が溢れていました。と同時に、島根に繋がる大勢の人々の、目には見えない大きな底力を感じました。

記念祭を無事に終えた今、改めて思うことは、み教えを信じ、重なる大節を乗り越え、島根の道の上にとれ程多くの方々が真実につとめられた事か……その道すがらは筆舌に尽くし難く、住持を偲ぶ時、深く心に感じ入るものがあります。今、こうして私達があるのも先人の方々のお陰です。私にご縁をいただいたこの島根の一員となりました……一員となったからには尊い先人の精神を心して、日々努力してまいりたいと思います。

談話室



勇み心で

東悠分教会長 田林久嗣

年祭のこの年九月二十六日、理のお許しを頂き、東悠分教会三代会長に就任致しました。皆様、何卒宜しくお願い致します。

東悠分教会は、笠岡大教会の部内で唯一東京にある教会です。ご存知無い方もいらっしゃると思いますので、簡単に紹介させていただきます。田林家の信仰初代は、曾祖父が明治二十年頃に身上をご守護頂き入信しました。その頃は旧大教会(現在の海松ヶ岡分教会)の場所に居住していましたので、ルーツは笠岡の地そのものになります。その後、祖父が大正十一年に、当時東京の浅草に集談所が開設されていたのを任される格好で東京に転居したのが教会の始まりです。もっともこの直後に関東大震災に遭遇して暫く音信不通となり、笠岡では葬儀の準備をしかけたところに無事生還したとの話が残っています。

そして昭和四年に現在の地で教会設立のお許し

を頂き、昭和四十一年より父が二代会長を四十年間勤めさせて頂いた後、私が三代会長に就任致しました。

私自身は大学卒業後、修養科、講習を経て大教会青年を二年間勤めた後、建築資材メーカーに営業として二十一年間勤務しました。

その中で以前から大教会長様より「この年祭を機に、会長を交替してはどうか」とのお言葉を頂戴しておりましたので、心定めて今日に至った次第です。

会社勤務では、仕事や売上に関する厳しき、人間関係での信頼の大切さ、そしてやり甲斐等多くの事を学び経験してきました。このことは教会長としても大いに役立つと考えています。これまで、自教会の月次祭をつとめる程度の通り方でしたが、今後は教会長として第一線で頑張らねばならない責任をひしひしと感じています。そして教会長として何が一番大切かと考えますと「陽気ぐらし」の一言に尽きると思います。この真理が簡単な様でいかに難しい事か！心から陽気に勇んでいるかどうかは、神様が全て見抜き見通しです。当然人にも伝わりません。故事に「桃李もの言わざれども、下おのずから蹊を成す」とあるように、良い薫や明るい雰囲気には自然と人が集まってくる。これこそが本来のにをいがけではないでしょうか。

陽気ぐらし実践の場としての役割、使命を果すべく、人が喜んで足を運んで下さる教会になるように、自ら勇んで頑張りたいと思います。

新前しんまい会長ですが、笠岡に繋がる皆様と共に成人の道を歩ませていただく所存でございますので、どうぞ宜しくお願い致します。



たやの尊き

陽備分教会長 虫明 立生

今迄教会の中で、何不自由なく暮らして来て、おぢばの学校に行かせて頂き、大教会青年、修養科、講習、布教の家にと当時は何の躊躇も無く、親の言われるがまゝにつとめてきたつもりでいました。

それが信仰と想っていた私は、大きく間違った思いの中で暮らしていた事を悟らせて頂く時句をお与え頂く事になります。天理教は、長男がその家の後継ぎという世襲制ではなく、おぢばの理を頂いた者が教会の代表役員であるという事も知らず、長男が教会の後継者なんだと思い違いをし、これから先は、長男の手助けをし乍らついてゆけばよいという考えで素直に通っていた様に思います。

ところが思いもよらず長男夫婦が、教会を出るという事になり、私は予期せぬ重圧にただひたすら教会長に成る事への不安と恐怖心から、道徳に反する心の使い方、又行いを無言の抵抗として十数年も通ってきました。

そうした中、人の保証人になっての心配、酒による健康の損ないに信用を失うという泥沼に踏み入る事になり、何とか立ち直らせ様といろんな

方々にお世話になり乍ら、最終的には、大教会でもう一度、住み込みをと役員先生のはからいにより、大教会長様にお話し下され、受け入れて下さる事になりました。最初の頃は、いんねんの姿がちらほらし乍ら、いろんな先生方の話しの中で、心の向きを何とか変えなければと思っていた矢先、部内教会長の交通死亡事故、そして、そこに乗り合わせていた会長、又部内の奥様のむち打ち、腰椎骨折という大節を頂き、私は教会に帰る事になりました。

うちの会長の退院後、大教会長様がお見舞いに来られ、この句に担任変更を切り出され、私が教会の会長に、そして会長が部内教会長にとのお話でした。私はもうこれだけ何年も人に迷惑をかけてきて、それにこれ以上、逃げ回る事にも疲れを感じていて、その場でその任を受ける心を決めました。しかし、今迄使っていた心が、一度に変わる事は無く、それを揺るぎない思いにしてくれたのが、就任奉告祭に至る迄に関わる人達のひのきしんに対する精神によるものでした。今迄、仕事をしてきた私は、知らずくにかしもの・かりもの理を心の隅に閉じ込め、親神様の御守護で生かされている事も考えず、こうまん人間になっていました。

今迄、とんでも無い心遣いをしてきた事

に何の小言も私に言う事無く辛抱して下さいたい人達に対し、本当に申し訳無い姿であったと振り返ります。あいまいな信仰であったが為、行い一つくが真実の無い通り方であったと深くさげさせて頂く今迄でありました。

教祖百二十年祭が、一月二十六日、おぢばに於いて、よふぼく信者が心一つにかぐらづとめを真剣に拝させて頂き、真柱様の温かい親心によって、この年を年祭の年と我々の成人をお促し下される最中さなか、九月にお運びという形をお見せ頂き、「生き乍らにして生まれ変わる」というこのお道の間違い無い信仰を改めて感じさせて頂き、親神様の御守護と、教祖の親心を目の当たりに感じ、この教えを真面目に「つとめ」と「さづけ」を常にひながたとした心で、この人生を勇んで通らせて頂きたいと思っております今日此頃です。





第4回 たばこ

信仰者から禁煙を



立教156年5月2日号

天理大学教授 上原 豊 明

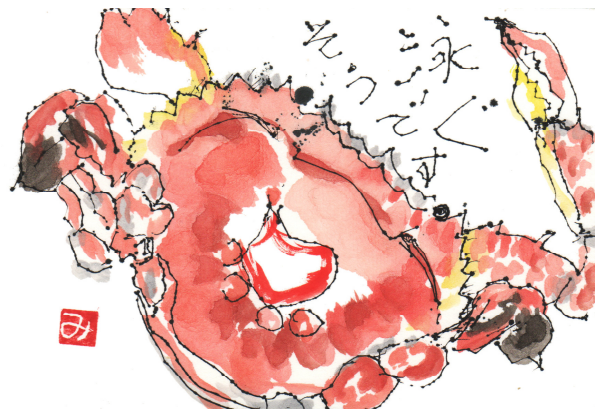
近年とみに、たばこの弊害がやかましく言われるようになり、嫌煙ムードも高まってきている。たばこはそもそも、中米マヤの宗教儀式に用いられたもの。それをコロンブスが十五世紀末にスペインにもたらし、ヨーロッパに浸透。日本には、ポルトガル人によって十六世紀に伝えられ、以来、し好品として愛されてきた。

しかし、五百年の長きにわたり世界中で愛用されたたばこも、一九六〇年代に入って、その害が取りざたされるようになった。特にアメリカでは保健局長によって取り上げられ、有害性に関する警告文をたばこ容器に記載することや、公共の場所での禁煙運動が盛んに行われるようになった。

こうした動きを受け、一九六二年以降、イタリア、イギリス、スウェーデン、カナダ、ノルウェー、西ドイツなどの国々で、たばこの広告を禁止したり、自主規制したりする動きが出た。日本でも一九七一年になって、警告文をたばこ容器に印刷するようになった。だがアメリカの警告文に比べ、非常にえん曲なものである。

さて、たばこの有害性であるが、私は専門外なので公刊されているデータをもとに概観してみたい。

たばこの煙は、分析すると数千に上る化学物質



が含まれており、うち二百以上が”有害”。成分はガスと粒子に分けられ、ガスの中で問題になるのは一酸化炭素と微量の有害ガス。二酸化炭素は、血液にある赤血球のヘモグロビンと結合する。一酸化炭素ヘモグロビンが形成されると、酸素不足と炭酸ガスの蓄積が起こりやすくなる。

一方、粒子成分とはタール、すなわちヤニである。タールにはがんの発生を促し、補助する物質が何種類も含まれ、中でも強烈なのはベンツ・a・ピレンという有機化合物。たばこの葉が燃える時の高温で炭素が化学反応してできる。肺がん、喉頭(こうとう)がん、食道がんを形成する。

ニコチンは血管を収縮させる。初めて喫煙した

時に感じるめまいは、脳血管の収縮によるもの。血管が収血圧の上昇、心拍数の増加、皮膚の温度低下などをきたす。妊婦の喫煙では、胎児への酸素供給不足が生じ、発育の遅れをもたらすとの報告もある。

成人でも、血液中の一酸化炭素ヘモグロビン濃度が上がると一種の貧血状態になり、脳細胞も酸素欠乏をきたしてくる。しかも、ニコチンの血管収縮作用と重なると、血中コレステロールの血管壁への沈下を促すという。このため動脈硬化を招き、喫煙者には大動脈瘤(りゅう)破裂などによる死亡が多いと報告されている。ほかに喫煙の害は枚挙にいとまがないが、近

年、指摘され始めているのは、副流煙。喫煙では口の中に吸い込む主流煙と火先から立ちのぼる副流煙があり、フィルター等を通していない分だけ後者の方がいろいろな成分の濃度が高い。主流産に比べて、タールは二・一倍、ニコチンは一・八倍、気道障害などの原因となるカドミウムは三・六倍、一酸化炭素四・七倍、気管支に障害を招くアンモニアは四十六倍である。

本人だけでなく、周囲にも悪影響を及ぼす喫煙。アメリカでたばこの有害性が指摘された時、真っ先に禁煙に踏み切ったのは、医であった。それは自分自身の問題としてより、他者への害、社会的見地に立っての行動であったという。

さらに、もっと重要なことは、周囲への迷惑。道の人ならへにをいがけの大切さと、実践することのかなめを知っているだろう。教えを生活の根底に置き、互いにたすけ合っ

て暮らす生き方。そこから醸し出される信仰の香りが、何より、教えの素晴らしさを伝えるのだと。たばこの煙、たばこのにおいは、果たして、へにをいがけになるのか。

世界の人々の健康な陽気ぐらしを実現する土壌は、まず道の人々の日常の生活の中から。喫煙の問題にしても、まず人に率先しての実践こそが求められているものと思う。



▼養徳社発行『陽気』誌十二月号、「道柳」より転載
▽今回の課題は「有」、選五十八句中、笠岡に繋がる教友

の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていましたので転載させていただきます。おめでとございます。

秀 詠 東悠分教会前会長夫人 田 林 美智子

十全の守護鮮やかに有る命

先月号掲載の歌のうち、二首目の「白く芙蓉の」は「白き芙蓉の」の誤りでしたので、左記のように訂正いたします。

秋風に誘われて 訪う師の庭に
白き芙蓉の 咲きて優しき

さて、私たち道の者は、どう受け止めるべきだろうか。かくいう私も、かつては一日四十本を吸い、さらにパイプも、というへビー・スモーカーであった。ある日、自分の体、家族と周囲の人々への影響を考えて、喫煙をやめた。吸う人の気持ちも、周囲の気持ちも、双方ともにわかるつもり。だが、お道には、へかしもの・かりものへの教えがある。お借りした体に有害となる喫煙を続けてよいのかどうか。

少年会研修員 第25期生募集

- 【出願期日】 平成18年10月26日～平成19年2月26日
- 【研修期間】 平成19年3月～平成20年3月
- 【出願資格】
 - ・団長が推薦し、団育成会長が認めた者
 - ・よふぼく(研修期間中におさづけの理を拝戴する者も可)
- 【選考方向】 「少年会と私」のレポートと面接

立教170年 笠岡大教会 年間行事 予定表

| 部会 月 | 全体行事 | ひのきしん | 布教部 | 海外部 |
|---------|---|--|--|---|
| 1 | 4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議 | 11~20 直属ひのきしん特別隊 21 献血ひのきしん 25~27 春季大祭詰所受入 | 28 ねりあい司会者研修会 | |
| 2 | 2~15 部内巡教 | 16~28 本部食堂(福山ブロック) | 26・27 教会長講習会 28・1 修養科修了講習会 | |
| 3 | 2~15 部内巡教 | | | |
| 4 | 22 大教会長杯 親善大ソフトボール大会 | 17~19 教祖ご誕生祭詰所受入 | 4月 にをいがけ・おたすけ実修会 ~6月 (希望教会) 29 全教一斉ひのきしんデー | |
| 5 | 4~18 直轄教会定期巡教 | 1~15 本部食堂(高屋ブロック) | 28・29 修養科修了講習会 | |
| 6 | | | | |
| 7 | | 16~31 本部食堂(島根ブロック) 25~4 こどもおぢばがえり 詰所受入 | | |
| 8 | 26~4 こどもおぢばがえり | | 28・29 修養科修了講習会 | 7~8 英語講習会 |
| 9 | | 境内掛交替 | 9月 にをいがけ・おたすけ実修会 ~11月 (希望教会) 1~30 布教推進強調月間 22~23 布教所長講習会 28~30 全教一斉にをいがけデー | |
| 10 | 4~18 直轄教会秋季大祭参拝 | 1~15 本部食堂(上府ブロック) 25~27 秋季大祭詰所受入 | | |
| 11 | | | 28・29 修養科修了講習会 | |
| 12 | 20 心定め提出 22 年末大掃除 | 1~20 直属ひのきしん特別隊 27 詰所餅搗 | | |
| 備考 | ◎常話会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員会議 毎月29日 午後1:00 ◎連絡会議 毎月29日 午後2:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後2:00 | 註：ブロックの区分けは 直1：鶴山~明石市 直2：久松、東城~錦備 上府：上下、府中市 | ◎おかえり講話 1月25日、4月17日 10月25日 いずれも午後7:00 | ◎月例勉強会(毎月21日) ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よふぼく月報 |

◎役員並びに直轄教会長会議：2月は末日、4・7・9・12月は20日(直轄教会長の集いに替えて行なう)

| 部会 月 | 婦人会 | 青年会 | 少年会 | 学生会 学生担当委員会 | 輸送部 |
|---------|--|----------------------------|--|-----------------------------|--|
| 1 | 31 委員部長講習会(ねりあい) | | | | 25~27 春季大祭参拝 |
| 2 | | | | 21 学生層育成者講習会 | |
| 3 | | | 21 育成講習会 30~1 鼓笛バンド講習会 1 おつとめまなひ総会 | 28 春の学生おぢばがえり 後夜祭(直属アワー) | |
| 4 | 19 婦人会本部総会 | | | | 17~19 教祖ご誕生祭参拝 |
| 5 | | | | 6 新入生歓迎会(おぢば) | |
| 6 | 5 ひまわり大会 | | 21 縦の伝道講習会 | | |
| 7 | | 1 別席・伏込ひのきしん団参 | | | |
| 8 | 25~26 こかん様に続く会 | | 22~24 野外錬成会(キャンプ) | | 26~4 こどもおぢばがえり |
| 9 | | 2~9 全分会布教推進週間 | | | |
| 10 | 10/1~ 婦人会本部 12/10 女子青年大会(地方開催) | 27 本部青年会総会 | | | 25~27 秋季大祭参拝 |
| 11 | 22~23 委員部長後継者講習会 | 1~24 1ヶ月ひのきしん隊 | | | |
| 12 | | | | | 雅楽部 |
| 備考 | ◎支部例会(毎月3日午前10時) ◎直轄委員部長連絡会(毎月次祭後) ◎女子青年例会日(毎月第4日曜日) ◎ひまわり会(毎月5日) | ◎大教会ひのきしん 毎月19日 午前9:00~ | ◎教会おとまり会の実施 | | ◎練習：毎月次祭前日 夕勤後 ◎舞楽練習：毎月次祭日 夕刻 |

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には一列子供が陽気ぐらしするのを見て共に楽しみたいとの親心から天然自然のお働きを通して十全の御守護を賜りお育て下さっております 中でも今は長く暑かった夏も終わりようやく秋を感じるようになって来たと思う間もなくいきなり真冬に入ってしまったと感じる季節を迎え戸惑いをおぼえつつも日々は結構に恙なく生活させて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は朝夕に御礼申し上げつつよぶくとこの自覚の元世界一列救きたいとの親心にお応えすべく又今年は一人でも多くの人をおおぼに誘いすべくにいがけおたすけにと勤め励ませて頂いております その中にも今日の吉日は此の笠岡の名称にお許し下さいました十一月の月次祭を執り行う日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一入に明るく陽気に勇んで座りづとめ手をつとめさせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共に声高らかにお歌を唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ尚も変わらぬ御守護にお縋りする状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて世上では景気が上向いて来たとか又年の瀬が近づいて来たりで何か浮かれたような様子がある一方目を覆い耳を塞ぎたくなるような事件事故が相次いでおり心の荒廃は進む一方の感があります そういう中だからこそ私共よぶく一同は親心に近づく努力を怠る事なく日々は喜びと感謝の心一杯に御教え通りつとめとさづけを通してにいがけにおたすけにと邁進させて頂く事を強く念じている次第でございます 又教祖百二十年祭の年をより意義あらしめる為本年残された一ト月余り一人でも多くの人におおぼ帰りをして頂きたくつとめ切る所存でございます

何卒親神様には親心に凭れ親孝心一筋に成人の歩みを進める皆の誠実の心をお受け取り下さいますして万たすけの上に更なる自由の御守護を賜り新たな時代を担う真実の人を次々とこの道にお引き寄せ下さいましてお望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んで申し上げます

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介
③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。
俳句等は1句からでも結構です。

寄 稿 先

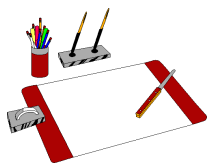
下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@kcv.ne.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



大教会だより

◎登殿参拝(十一月)

| | |
|-----|------|
| 錦備 | 室悦子 |
| 八尋 | 矢田哲一 |
| 安那 | 吉岡輝昭 |
| 芦田川 | 吉岡貞彦 |
| 三郡 | 貞清知実 |
| 芦加茂 | 小川洋子 |
| 香地華 | 渡邊勇喜 |
| 仲條 | 重政禎子 |
| 門司港 | 猪原啓介 |
| 高見島 | 瀬良善彦 |
| 河佐 | 友井道弘 |
| 甲井 | 山田敏教 |
| 上父 | 岡節明 |
| 阿木行 | 田原節夫 |
| 宇津戸 | 松谷静子 |
| 河面 | 川上正毅 |
| 府鮮 | 奥上忠郎 |
| 府世原 | 高信公枝 |

◎第七八五期修養科

自 立教169年9月1日
至 立教169年11月27日

*教養掛

三ヶ月間 横山逸郎

(東城分教会長)

一ヶ月目 福島泰道

(瑞北分教会長)

二ヶ月目 内海安子

(島中分教会長)

三ヶ月目 平盛秀年

(福昭分教会長)

*修了者

伯仙 川内尚美

大江橋 村川明

金浦 前里嬌子

西村 藤本知香



訃報

小川安子姉

芦加茂分教会前会長

十二月十二日出直されました。
享年 八十三才



とある宴席でのことです。そのお席には、大教会長様と奥様がお出で下さったのです。

その最中、同輩の某氏は酒をたらふく飲んで「正義感」から、仲間の身振り手振りの事に暴言を吐いていたのです。それがエスカレートして

何だか周囲の雰囲気が悪くなりつつありました。目の前には大教会長様が、奥様が、あくどくなることやら・・・と、反面どのように仰るか？と待ち受ける気持ちで居た私です。そのうち奥様より「あの人の良い所は無いの？」と「えーとこなんや、あーませんわ」すると奥様は「良い所を見つけて、そこをほめてあげたら良いのにねえ・・・」

「・・・」「悪い所ばかり見えるのは、貴方にはそうとしか映らないのは、鏡に映ったわが姿じゃないのかなあ」と。「・・・」

そう云えば、私自身の修養科のとき、感話大会の題名を「人を鏡に」と吉岡寿先生から戴いた時の事を強烈に思い出したのです。身上者と同室の3ヵ月間を取り沙汰にした私に「身内なら放って置けないだろう、ましてや我が身に代えて見せて頂く姿、一生懸命にお世話させて頂くやで」それが「鏡に映った自分の姿」といまして頂いた事でした。

上座で黙って観ておられた大教会長様、「皆互いにそれぞれクセ性分があるから、それを取るようにと見せて頂いたのや」と収めて下さいました。本音が語らう宴席で、お酒を頂戴し、ご馳走にも舌鼓、更に大いに勉強させて頂いた、本当に勿体無い有り難い次第です。奥様のやさしい言葉にジーンと来ました、流石は大教会長婦人・奥様はすごい！信仰の「土台」がしっかりしていらっしやいます。

(に)